

## 「語り部くらぶ」その後考

矢口 裕 康

### ①はじめに

黒木博という仲間がいる。特定非営利活動法人・はにわの会仲間の家（以下、仲間の家と略す）のメンバーで、牛乳パック等の回収にかかわっている。とても笑顔のいい、眼のぱっちりした男の子である。仲間の家恒例の忘年会がおすし屋さんであった。忘年会の前には買い物をしてから会場への流れとなっていた。ダイエーで買い物をした絵本を、博君は一生懸命みていた。車の絵本であった。「何の絵本」「私にもみせて」と言っても、誰にでもみせてくれるわけではないようであった。でわと「僕にもみせて」と言葉を掛けると、すんなりとみせてくれた。私も彼のことに好感をいだいているし、どうも彼も私のことを認めてくれていたらしい。好き嫌いという感情は、目をみてもわかる。しかし、この関係は一鳥一石で出来たものではないことに気付いた。

実は一九九六年一月から、仲間の家の定例行事として月一回一時間位ではあるが「語り部くらぶ」という言葉探しの場へかかわってきている。博君は、他の仲間とかかわることも難しく部屋の隅で聞き耳をたて参加しているのがほとんどである。しかし、そこでの一日一時の積み重ねが、忘年会でのあの瞬間へとつながったようである。人と人との関係は、たしかに一度会っただけでびったりという

こともあるかもしれない。しかし、徐々に温めてゆくものであることを実感したしだいである。

仲間の家は、障がい者と健常者が何のためらいもなく一緒に生活できる環境創りをめざした、小規模作業所である。ここで月一回ではあるが、語り部くらぶをおこなってき、十一月で九十五回となった。言葉は誰にとつても必要な手段であろう。また何らかの形で誰でも身体の中にもっている存在でもある。このことを前提として、言葉をいかにひきだし拡げてゆくかをめざしたのが語り部くらぶである。二〇〇三年は、年間テーマとして色から言葉をひきだし拡げるとし、毎日取り組んできた。

七月の勉強会では、六月に取り組んだ「七夕といったら何」の言葉群を基に声出しをおこなった。私なりに出現した言葉を色わけにして、さてこの言葉とは何を表しているのかに思いをはせながら声出しをおこなってみた。語り部くらぶでは、毎回姿勢を正し声をしっかりと自分なりにだすことを始めとしている。

① いろがみ おりがみ 折り紙 たんざく ねがいごと 願いごと  
と ささ 笹 ささのは わっか 七夕飾り ② おりひめ 織姫  
おりひめぼし ひこぼし 彦星 ひこうぼし はたおり ③ あ  
まのがわ 天の川 ほし 星 つき かぜ あめ くもり はれ  
つち 川 みず

と、①は七夕飾りを巡っての言葉群②は七夕伝説の主人公達③はそれ等を取りかこむ自然群ということであろうか。また、七夕から夏の連想であろうか。

うちわ    せんぶうき    そーめん    アイスクリーム    そば  
そして

あそび    七月七日    七夕

も六月の勉強会では出現してきた。これら三十八の言葉達をもう一度、自分の心の中へととらえかえす意味ももって、声出しに活用してみた。

その後、この日は「夏といったら何」そして「夏の色とは何」へも思いをはせる形へ、展開してみた。夏の色を考えるための色は、黄・橙・朱・赤・黄緑・緑・青・青緑・黄土・茶・黒・白の十二色カードを用意し、選んでもらった。仲間達の選択は

選んだ色		夏といったら何
黄	うみ    せんぷうき <sup>△</sup>	夏といったら何
橙	ひまわり <sup>□</sup>	
赤	すいか    すいか	
黄緑	夏の王様	
青	ふうりん    ゆかた    うみ <sup>△</sup> 水シャワー    たおる	
青緑	すいか	
茶	うみ（△はスタッフ□はボランティア）	

であった。

これから訪れる秋・冬・春でも、十二色カードから季節を感じてみて欲しいと思つての初試みである。私自身が思つてもみなかった夏色選択、茶色・黄色も出現してきた。何故この色を選択したのか

との思いをはせながら来月の語りくらぶへである。

仲間の家の活動内容の一つに「障害のある人たちが地域で暮らすためには、地域住民の理解と協力が不可欠です。そのために、成熟したコミュニケーションを目指して活動しています」がある。地域住民とのコミュニケーションをとるのに言葉のみがということではないだろうが、言葉でも交流できたらいいのではないかとの思いあつての「語り部くらぶ」である。一九九五年九月、先ずは自主参加の形で言葉の勉強会を始めた頭初は、生活経験の狭さから言葉の獲得に限界があるのではと思つていた。しかし、語り部くらぶを積み重ねてみると、作業所へと通つてくる仲間の中には、たくさん潜在的に持っている言葉群があることがわかった。それらの言葉をスタッフもボランティアも共有し、そこから自分の言葉拡がりもめざしている。言葉はひきだされ、みがかれ、かつ語られて自分のものとなつてゆくものである。その手伝いを、語り部くらぶも出来ないかと思つて、毎月取り組んでいるしだいである。

注①障がい者：筆者は、「障害」という表現に納得できない。とりあえずは、「害」を「がい」と表現することから「障がい」表現を考えてゆきたいと思つての表記である。

## ②「かぜ」と言葉

二〇〇〇年五月二十三日語り部くらぶの日であった。しかし、ちょっと風邪ぎみで語るのにはつらい状況で仲間の家へとでかけた。さて語り部くらぶを始めようとした時、では「かぜ」を活用してやつてみたらと着眼したしだいである。この日はこんな切掛けをもつて言葉を発見する一日となった。

「かぜ」には、風邪と風の表字がある。先ずは風邪の意味をおさえてみた。『国語辞典』には

「風邪〔前項「風」と同原。諸病の源ぐらいの気持ちで「邪」を添えたもの〕薄着したり、寝冷えしたりしたあと、むやみに鼻水・くしゃみ・せきが出たり、のどが痛くなったりする症状。頭痛・発熱・腹痛を伴い、肺炎を併発したりすることが有る」

と記されていた。この記述を基に、夏風邪には気をつけようとの提示もした。また辞典中には「前項『風』と同原」とあったが、一方の風には「□□□が動く現象」と記されていた。この三音の言葉それぞれに問うてみると、「くうき（空気）」へと辿りついたしだいである。その後、さてどんな風を知っているか想いつくかぎりすべてあげてみようとは提案して、出現してきた「かぜ」が次の言葉群である。

つむじ風（４） つむじかぜ（２）  
 そよ風（３） そよかぜ（３）  
 とつ風（１） 突風（２）  
 疾風（１）  
 からつかぜ（２） からつ風（１）  
 こがらし（１）  
 あまかぜ（１） 雨風（１）  
 熱い風（１）  
 熱風（２）  
 温風（１）  
 寒風（１）  
 寒い風（１）  
 涼風（２）

すず（涼） しい風（１）  
 きせつ風（１） 季節風（１）  
 たいふう（４） 台風（５）  
 タイフーン（１）  
 モンスーン（２）  
 へんせいふう（１） 偏西風（１）  
 ぼうふう（１）  
 たつまき（５）  
 東風（１）  
 こち（１）  
 西風（１）  
 南風（１）  
 北風（１）  
 陸風（１）  
 うみ風（１） 海風（１）  
 海の風（１）  
 夏風（１）  
 春風（１）  
 （エアコンの） 両風（１）  
 えあこんの風（１）  
 弱風（１）  
 クーラー（１）  
 せんぷうきのかぜ（１）  
 せんぷうき（１）

いろんな風がふいてくる風 (1)

あまい風 (1)

あやしい風 (1)

かたできるかぜ (1)

親分かぜ (1)

ふうせんからぬけるかぜ (1)

ローソクをふきけすかぜ (1)

すきま風 (1)

ビル風 (1)

水シャワーをあびると外の風がとても気持ちよい (1)

シャワーをあびたときに外から風がふいてくるのが気持ちいい (1)

流感 (1)

流行性感冒 (1)

はやり風邪 (1)

夏風邪 (1)

高温調節の風邪 (1)

\* ( ) 内数字は表現した人数、表字は表現者のものである。

一時間弱の語り部くらぶであったが、風邪が五種そして風四十八種表現された。私は日本語表現としての平仮名・片仮名・漢字にもこだわった表字を追求している。この表字という面にも目を拡げてみると、まさに五十七とおりもの表現が出現したことになる。

自分自身の風邪ぎみから始まった一日であったが、仲間達と言葉を語り合った瞬間を実現できたといえそうである。

### ③クリスマスからの言葉

二〇〇〇年十二月二三日、仲間の家にとってもクリスマスクッキーキャンペン真っ最中ということで、忙しい中での語り部くらぶ一時間であった。

並行してクッキー作りをしている二階から、クッキーの臭いも漂う中で、いつものように声だしを始めた。今日はリズムミカルな文なので、このこともふまえて長音・短音を確実に発音する形で立ちましようラツパで タチツテト

トテトタツタと 飛び立った

の声だしで元気よくスタートした。声だしの際は、自分の選んだ猫を両手で持ち、出来るだけ背筋をのばし・あごをひいて・息をいっぱいすいこんで、自然体での発音をおねがひしている。

口もなめらかになったところで、部屋の柱にサンタクロースからの手紙がはってあったので、これも活用しての展開としてみた。実は、私が部屋に入った時、山村大蔵君がこの手紙を読みたそうにして、じつとみつめていた姿をみかけたこともあってである。前半のくだりに、「サンタクロースの年は何歳かわかるかな？」のような問いかけがあり、先ず仲間達に聞いてみた。ついでに、サンタクロースは男と思うか女と思うかも聞いてみた。すると、女ではとする人が2人いた。ちなみに年令は五十歳・九十歳という返答であった。女のいやお婆ちゃんサンタクロースがでくる、佐野洋子著『サンタクロースはおばあさん』（昭六十三年十一月・フレーベル館発行）も持つてき、読めたらよかったなと思っただいであつた。さて大半の十二人は男性であろうとのことであつた。年令は、六十歳・七十歳・七十二歳（2人）・七十七歳・七十九歳・百歳（3人）・二百歳・五百歳（2人）であつた。世間にでまわっている画や情報

もあつてか、仲間達の大半が描くサンタクロースも男性であつた。しかし年令に対しては、なんと五十歳から五百歳まで、かなり幅がでてきた。サンタクロースに対する二つの質問を、まずは小さな紙に書いてもらった結果なので、仲間達一人ひとりの思いの違いとしてうけとれた。仲間の中には文字で表現したいメンバーもいるので、その人にはスタッフが言葉を掛けた上での思いである。

さて、このような仲間達の思いを実感した上で、土田義晴さく『はじめてのあいいうえお』を活用した(第二期・仲間の家あいいうえお)さがしを今日でもある。今回はた行であつたが、各チーム毎、頭音で始まる言葉に条件をつけず、さがしてもらう形をこころみた。チームの決定は、ここの所定番となつている札を二度ひくという形にした。一回目は予備抽せんのような形で、自分が本抽せんとしてひく順番を決め、もう一度ひいてもらうが、その際も男から女から、年令の若い順か年を重ねる順か、色々な組み合わせを駆使している。今回は仲間達がひいた数字の結果をみて、違った人間関係と出会つてほしいとの思い、私の方で三人ずつ一組の配当とした。その後の展開はチームを組んだ場合、一緒になつた仲間と私から提示された条件をふまえて、語り合いながら命名してゐることを恒例としている。この日はクリスマスも近いので、これにちなんだ事・物の命名をお願いした。チーム名は

ケーキ (なら ゆうこ やまさき)

トナカイ (さかもと △いづか あきこ)

となかい (せいや ながとも ちほ)

サンタクロース (もり △ひろすえ ただひら)

プレゼント (ふみこ やまむら △たかもり)

(△はスタッフ・ボランティアを表す)

の五つであつた。チーム命名トナカイは、平仮名とカタカナと重なつたが、表字が違えばこのような形も認めることを原則としている。仲間達からひきだされた言葉は、表①のようなものであつた。語り部くらぶの最後は、今日ひきだされた言葉を一つひとつ皆で読みあげることで納めるのを常としている。語り部くらぶに参加して毎回思うことだが、言葉は自分の中から発見しひきだされてゆく存在である。そして他の仲間の言葉と出会うことにより、さらに拡がつてゆく可能性をもった存在でもある。このような場へと語り部くらぶの一時がなればと思ひ取り組んでいるしだいである。

表① 第2期「仲間の家あいうえお」た行

チーム名 ことば	ケーキ	トナカイ	となかい	プレゼント	サンタクロース	土田義晴は
た□□□	たまごやき たまご たこやき※ たいやき	たこやき	たこやき	たんぽぽ	たいへん	たんぽぽ
ち□□□□□	ちようちよう	ちりめん ちきゅう ちきんかつ※ ちようちよう	ちよこれいと	ちんぱんじい	ちかくにいる	ちゅーりっぷ
つ□□	つくし	つらら	つなみ つりー つくりもの※ つくし	つくえ	つみき	つくし
て□□□□□	てりやきばーがー	てんぷらうどん	てつきようだい	てをあらおうよ てをつなごうよ てるてるぼうず※	てぶくろほしい	てるてるぼうず
と□□□□□□	とうもろこし	とうもろこし	とうもろこし	となかいさん	とけい とつてもすてき とりがとぶ※ とんでもない	とうもろこし

※㊦～㊨との言葉はそれぞれ各チーム毎に複数考えてもらい一つみいだしてもらった。

## ④七タとことば

二〇〇三年六月二十七日語り部くらぶは、七タが近いということ  
で、このこともおりこんだ一時間とした。

先ず事前に準備したものは四種である。その四種とは、赤・青・  
水・緑・黄緑・黄・白の七色の短冊・「たなばたさま（林柳波・作  
詞 下総皖一・作曲）」歌詞を大きく書いた紙と楽譜・紙芝居『た  
んぎくにおねがいかいて（作・木暮正夫 画・岡村好文）』・五月  
語り部くらぶにて追求した「肌色」からひきだされた言葉をすべて  
書きあげた紙である。

二〇〇三年は、色から言葉を探求という形で取り組んでいる。今  
まで、二月 青（十種）緑（二十六種）黄（十八種）橙（九種）赤  
（二十種）・三月 白（五十七種）黒（三十種）桃（二十種）・四  
月 紫（二十八種）茶（五十七種）と、肌色（九十八種）含めて十  
一色と出会い、その色カードからたくさんの言葉を仲間達・スタッ  
フ・ボランティアの中からひきだしてきた。（表②参照）

## 表② 色からうかん言葉

あお（二〇〇三年二月二十三日↓以下、語り部くらぶ実施日）

うみ 海 そら 空 ドラエモン なみだ プール オーバー  
コート（ふく）

みどり（二〇〇三年二月二十三日）

はっぱ ぐりーんぴーす 青じそ ししとう なっぱ にんにく  
のくき ブロッコリー 木 森 くさ 草原 きゅうり ピーマ  
ン レタス きやべつ キヤベツ ほうれんそう あおじる た  
たみ せんせいの車 みどりのじゃんぱー そらまめ バッタ  
カマキリ カメレオン カメ

き（二〇〇三年二月二十三日）

ひまわり バナナ ばなな レモン れもん きいろピーマン  
ピーマン ちようちよ パプリカ シンゴウ 信号（注意） パ  
ンジー 水仙 きいろみかん たくあん キンカン トウモロコ  
シ きんぎょ

だいたい（二〇〇三年二月二十三日）

おれんじ オレンジ かき いよかん みかん おれんじじゅう  
す オレンジジュース せんせいの車 せんせいのくるま

（注） 緑にも先生の車をだが、二色の違う車を持っており、二台共語  
り部くらぶ教室へと乗っていったのを見たためである。

あか（二〇〇三年二月二十三日）

とまと トマト あんばんまんのほつぺた 赤ピーマン 赤いセー  
ター あかずきん いちご まつち しょうぼうしや ポスト  
信号（止まれ） りんご リンゴ バラ さくらんぼ トウガラ  
シ とうがらし 消防自動車 ベニシヨウガ はなぢ

しろ（二〇〇三年三月十四日）

石ケン 消しゴム とうふ トーフ ホワイトボード 白衣 雪  
ゆき 雲 波 ゆり チョーク 白かべ Yシャツ 大根 ダイ  
コン 白御飯 ごはん ゴハン 牛乳 ぎゅうにゅう 塩 しお  
砂糖 さとう シロクマ 白くま しろくま 雪ダルマ カマ  
クラ ホッキョクグマ ソフトクリーム アイス 紙 もち ス  
コール シチュー まんじゅう かきごおり はねこ クラ  
ゆきがっせん カーテン パック くつ下 けいと シヤツ ラ  
ンニング うさぎ ウサギ やぎ ヤギ デンキ カルピス

くろ (二〇〇三年三月十四日)

目のり カブト虫 カブトムシ ランドセル カバン くま  
髪 かみのけ 黒髪 学生服 くらまめ 黒ねこ クロネコ ネ  
コ セーター クレヨン カラス ピンどめ ごま くじら く  
ろヒョー くつ ジャンパー ウシ ウマ くわがた バック  
ぼうし アリ マルキヤ (商標が黒字)

もも (二〇〇三年三月十四日)

ほつぺた フラミンゴ タオル もも 桃 ピーチ すもも も  
もの花 もものはな 桜の花 さくら 梅の花 うめ プラム  
コスモス チューリップ さくらもち かみ スリッパ ホワイ  
ト急便 (看板全体が桃色)

むらさき (二〇〇三年四月二十五日)

なす なすび ぶどう すみれ チューリップ はな ききよう  
の花 パンジーの花 あじさい ふじのはな あやめ 花しょう  
ぶ ブルーベリー むらさきいも むらさき唐芋 焼きいもアイ  
ス ファンタグレープ Tシャツ リボン こうもりがさ ぶど  
うのゼリー むらさきキャベツ むらさきのペン むらさきの車  
むらさきのあんこ むらさきのかきごおり むらさきのずぼん  
むらさきのき

ちや (二〇〇三年四月二十五日)

チョコレート キャラメル なつとう なし むしパン こくと  
うくり ばん きのこ コーヒー むぎ茶 アイス おじゅう  
ばこ 弁当箱 ふとう 箱 ダンボール ながてーぶる つく  
え サッシ ベニヤ板 きのみき Tシャツ くつ ボウシ ベ  
ルト びんどめ むぎわらぼうし ならくんのTシャツ にしむ

らくんのかお ゆうじろう (仲間の一人が飼っている犬の名前)

ねずみ チョボ (チャボ) さる うまいぬ らいおん す  
ずめ ハムスター はな ギター 僕のギター ちゃばつ ひや  
け つち 胃の薬 S M 茶色のかびん ちゃいろのペン ちゃい  
ろ犬 ちゃいろのはこ ちゃいろのくつ ちゃいろのようふく  
ちやいろいくるま ちやいろのずぼん ちやいろのき ちやいろ  
のしやつ あかちやいろ

はだ (二〇〇三年五月二十三日)

はぐき かんばん ペンのふた はな ほつぺた<sup>△</sup> ゆか<sup>△</sup> かば<sup>△</sup>  
アルバムのカバー いえ かお おぼん がようし セーター  
ぼうし はだぎ はだ あし かみ ブックカバー はぶらし  
はだかの王様 ばんそうこう<sup>△</sup> ねこ はむすたー ははうえ は  
はいろ ペン ふとん はた かおのいろ したのはだいろ 上  
のはだいろ よこむきはだいろ いぬ<sup>△</sup> ペンキ<sup>△</sup> ダンボール<sup>△</sup> へ  
そ人<sup>△</sup>のかお みみ て つめ うでいろ 手のいろ ファンデー  
ション リバテープ ストッキング フレンチドレッシング プ  
タ 下着 ピップエレキバン タラコスパゲッティ サーモン  
のりさんのあたま タオル マヨケチャップ ズボン下<sup>△</sup> せつけ  
ん パフ けしょうびん かおぜんたい やねがわら さんかく  
きん カーデガン 木のみき (以上△印は他のメンバーからもだ  
が、以下の表現は△印も含めて一日ボランティアの表現した肌色。  
洋服 土 くつ下 パンティストッキング ギター 下じき 歯  
みがき らくだのモモヒキ ボストンバック ネットタイ 古い写  
真 小鳥 車の色 かべ がくぶち 机 えのぐ ボールペン  
らくだ くつの色 ねんちやくテープ 封筒 茶ばつ 本 屋根



皿 はし 木のフォーク 茶わん テーブル 傘 ズボン 柱  
カモイ)

(注) 茶色の「ならくん・にしむらくん」、肌色の「のりさん」は仲間  
の家のメンバーの名前である。

表字は、語り部くらぶ仲間の家メンバーが表現した形を尊重して  
記した。

その中間点である六月、今まで出会ってきた色・言葉も活用し、  
短冊に願いを書くへともっていったしだいである。

さてまずは語り部くらぶ導入は、恒例の自分の二〇〇三年の猫へ  
とむかって、背筋をのびし声だしをしてみた。ちなみに声をかける  
自分の猫には、今年も様々な命名がされている。(資料2参照)。一  
月の語り部くらぶの際、一年間つきあう写真の猫を自ら選び、命名  
することを常としている。二〇〇三年は、まり・おんせん・にやお・  
トム・しんちゃん・シロ・ギブソン・チョコ・ひで・にゃん・あき・  
ねこ・みゃあ・シュウ太郎・たま・とも・しゅうくん・クルミ・ボ  
ブ・えみ様・ぐうと多彩な命名である。自ら選んだ猫の写真そして  
命名をもした厚紙のカードに、自分の声をぶつけてゆくと発声にも  
意欲が違ってくるのではないかと思っている。

さて五月の肌色カードからの言葉さがしは九十八種も出現し、思  
わぬ拵がりをみることができた。この肌色から連想した言葉一つひ  
とつを、一音一音大切に自分なりにきちんとだすことからスター  
トである。

さて展開の部分では、いつも二とおりのやり方を頭においてのぞ  
んでいる。一つは個々人の言葉さがしを主にした方法、もう一つは  
何人かでグループを作り語りあいながら言葉をさがしてゆく方法で

ある。今回はグループを作った言葉さがしとしたが、今まで試み  
たことのない形をとってみた。その方法とはこの日スタッフが三人  
参加していたので、そこへ仲間達加わる札をひくという形にした。  
札は一〜二十までの数字を一番下に書きこんだダンボールを細長い  
形にしたものを、常に使っている。しかしその前にこの日は、仲間  
の家への参加年数の長さも短さも活用しての札選びとした。まずは  
一番長い森君と、二〇〇三年四月から参加した長沼君がじゃんけん  
をし、どちらから札をとり始めるか決めた。このじゃんけんをする  
という行為を順番を決める際にはよく活用させてもらっている。じゃ  
んけんは、お互いがみつめあい皆の前でするわけだが、仲間達にも  
このような立場必要であると思つての形である。さて、じゃんけん  
をする前にまず森君から長沼君までの参加年数順を確認してみた。  
森君・東別府さん・長野君・奈良君・原田さん・山中さん・前田さ  
ん・三谷さん・財部君・長沼君の順であった。語り部くらぶへ常時  
参加している四人が不在であったが、六月は十三人の参加であった。  
さてチームへとふりわけると、多少人数のかたよりがあつたため、  
仲間達の意見に耳を傾けグループ分けを具体化した。

スタッフ鶴崎に前田・東別府・三谷・スタッフ松本に長野・奈良・  
山中・財部、スタッフ西村に森・原田・長沼であった。ここでグルー  
プも出来たので、せっかくであるから集った仲間達で語り合い命名  
をしてみる形を、いつもとっている。この際、私の方で「夏といっ  
たら想い浮かぶもので命名を」との注文をだし、今回は、それをチー  
ム内ですべてあげた上で、一つにしぼるという形を試みてみた。

札

1

スタッフ鶴崎	スタッフ西村	スタッフ松本
アイス かき氷 あさがお ひまわり せみ すいか うみ ふうりん プール はなび	クーラー プール 海 花火 西瓜 かき氷 アイスクリーム アイスクャンデー	すいか まつり 冷し中華 花火 せみ チューブ ひまわり ビール はなび大会 たんさんジュース せんぷうき らむね かぶとむし くわがた うみ ぷーる ソフトクリーム

上記のような言葉が出現してきた。

今までだと、このような形に書きあげることはせず、想い浮んだ言葉をチーム内であげ、仲間内で語り合いその一つを選ぶという方法をとっていた。しかし、このやり方は今まで言葉の探索を続けていたからこそ可能になったことであろう。しかし、今回長沼君という新しい仲間の参加により、もう一度丁寧な形でチーム命名の過程を明らかにしてみた。すると言葉さがしの機会が、一回の語り部くらぶの中で更に広がるという形にもなった。今後も、仲間と一緒に色々なことを試みるという形で負担にならないとみてとれば、活かしてゆきたい方法の一つである。

このように語り部くらぶの構成要素は、その空間へと集うメンバーに触発され形づくられてきた面が多々ある。さてチーム名は、ひまわり（スタッフ鶴崎）クーラー（スタッフ西村）かぶとむし（スタッフ松本）に決まった。いよいよ六月の主テーマ七夕である。先ず七夕から想い浮かぶ言葉を、チーム毎にあげてもらっ

ひまわり	クーラー	かぶとむし
天の川 彦星 織姫 笹 願いごと 七夕飾り たんざく 折り紙 星	おりひめぼし ひこうぼし ささのは 天の川 はたおり たんざく	いろがみ おりひめ ひこぼし あまのがわ ささ うちわ せんぷうき あめ くもり ねがいごと ほし つき わっか あそび 川 おりがみ そーめん そば アイスクリーム みず はれ かぜ 7月7日 つち

た。上記のような言葉が出現してきた。

ここで一つ七夕についてのイメージをそれぞれが思い起こすため、紙芝居『たくさんにおねがいかけて』を、じっくりと仲間達へと語りこんでみた。願い事を短冊に書くとういうことが起こるかを主テーマにした紙芝居であるが、しっかりと聴き耳をたててくれた。

さて、それぞれ願い事は、仲間は

○病気がなおりますように

□みみのおばあちゃんにいきたい

□どらんごぶせつとなりたい

□ハンバーグたべる

○大きい家がほしい！

□げんばのおじさんになりたい

□巨人にはいる

○またKinkidsのライブに行きたいように

○あいあい（注②仲間の家の運営する喫茶店）

がんばる

そして

○私は、一日でもA病、Bの病気を早くなおして、一日でも、外のお仕事に早く行ってお金を一杯貰ってためて先で、しよらいの事をよくかんがえて、宝くじの

ジャンボがあたりますように、ホーム生活が出来ますように、仲間の家が、はば広くなりますように、あいあいのお当番、一生懸命頑張つて、いずれお金を多く貰いたいなと思います。ほめられるように休みを少なくして仲間の家を頑張ります。

との長文の願いもであった。

仲間の家では、一年に一回自分の願い事を七夕飾りへの行事をおこなってきたゆえの思いであろう。しかし語り部くらぶの中で書いた願い事は、また一味違うものであろう。仲間一人ひとりの願い事が実現するための一助に、語り部くらぶもとの思いももって今後も、さらなる活動のふくらみをめざしてゆくつもりである。

## ⑤ 色から感じる言葉

二〇〇三年十月二十四日語り部くらぶは十九人の参加であった。

まずは声出しと、九月の色ごとに言葉を考えたものを活用してみた。十八種の言葉をア行からカ行へとわけて、ア行は長音で残りは短音で口の形をきちんとし、しっかりと腹の底から声を出すよう声掛けをした。ナ・ラ・ワ行の言葉はでてこなかったが、

㊦ あおぞら 海 おちや おうどん

㊧ くろいふく からす かんようしよくぶつ

㊨ さくらもち

㊩ 地球

㊪ ひこうき全日空 バッタ バスクリン

注③

㊫ もりさんのかお 桃まんじゅう みかん みずようかん

注④

㊬ やぐちせんせいのくるま ゆき

の言葉が出現した。うち「さくらもち みかん」は二人ずつであった。しかし、さくらもちの二人桃色からであったが、みかんは黄色そして橙色からの想像と、色感では違うものであった。さて、十八種の言葉は、桃・青・水・橙・黄・黒・黄緑・白色のどれかの色からの想像であるが、言葉と色、自分なりにあてはめてみても面白い。さて、姿勢を正し、二千三年自分なりに選び命名した猫の写真に、腹の底から声をだして語り部くらぶスタートである。

この日の言葉探しはチーム毎に考えてみようと思いつき、仲間達がどのスタッフと、今日の語り部くらぶをすごしてみたいかを選択する形にしてみた。

選ばれる側にまわったスタッフ六人の表情も、この提案で緊張し、

かつ仲間達の選択過程での心配りそして優しさには感動した。語り部くらぶ九十四回目となったが、継続の原動力の一つは、このような感動から元気をもらえることである。結局

①河野 山村 長野

②松本 奈良 森

③鶴崎 前田 原田 森(富貴子)

④西村 長沼 三谷 東別府

⑤長友 中村 財部 山中 忠平

の五チームができた。それぞれに秋にちなんだチーム名をつけることを願った。すると、そのチームメンバーと語り合い、①くりもなか②なしがり③もみじ④くり⑤ゆうひ、との命名がされた。

この日も、二〇〇三年テーマ色をめぐる言葉探しであったが、まずは『あたたかいおくりもり』(森山京・作 福田岩緒・絵 二〇〇〇年三月 ポプラ社刊)の表紙の色を表現してもらうことから

表③『あたたかいおくりもの』と言葉

あんであげた動物	りすのおばあさんにあんでもらった作品	その作品の色表現	作者（森山・福田）は
近くに住むうさぎの娘さん	①（くりもなかチーム）セーター	オレンジ	えりまき （きれいなにんじん色） スケートへ
	②（なしがりチーム）セーター	にんじん	
	③（もみじチーム）セーター	オレンジ	
	④（くりチーム）セーター	にんじん	
	⑤（ゆうひチーム）ぼうし	ニンジン	
知りあいのきつねのぼうや	ちいさな		小さな手袋 （オレンジ色） この色をみると元気がわくんだとボクシングのまねをする
	①ぼうし	ゆうやけ	
	②ぼうし	ゆうやけ	
	③手袋	人参	
	④ぼうし	だいたい	
ねずみの奥さんが赤ちゃんを抱いて	⑤セーター	オレンジ	小さな小さなくつ下 （かわいい橙色） なんべんもほおずりをする
	ちいさなちいさな		
	①てぶくろ	だいたい	
	②てぶくろ	だいたい	
	③くつ下	ゆうやけ	
友達のへびのお爺さん	④くつした	ゆうやけ	丸い帽子 （ゆうやけ色） この冬はゆうやけ色の夢でもみてぬくぬくとすごせそうだよ
	⑤手ぶくろ	ゆうやけ	
	まるい		
	①はらまき	にんじん	
	②マフラー	オレンジ	
	③マフラー	だいたい	
	④マフラー	オレンジ	
	⑤はらまき	だいたい	

始めた。「オレンジ色 だいたい色 ゆうひ色 にしび色 ゆうやけ色 みかん色 にんじん色」があがったが、作者は四音からなる表現であることを示し、四つの色素現に落ち着いた。この表現も用い、りすのおばあさんが毛糸で動物達に編んでゆく作品の中身を考えながら、言葉探しをしてみた。

五つのチームの言葉探し結果を表③のような形で示し確認した後、『あたたかいおくりもの』を語ってみた。絵本のタイトルどおり、温かいおくりものをいっぱいもらうことのできた語り部くらぶであった。十月の語り部くらぶは、まさに私と仲間達そしてスタッフとの臨機応変・発想のぶつかりあいの一時であった。

語り部くらぶを何回おこなったということではないが、継続も力なりであるから後六回で百回を迎えるわけであるから、そこをめざして私なりの「ぼらんていあ」をである。

本考は、今後の語り部くらぶの展望を導き出すために、九十五回の活動一つひとつを整理し想起してみた。その一端を整理してみたしだいである。

注③「もりさん」とは、特定非営利活動法人・はにわの会仲間の家会長森富貴子さんのことである。

注④「やぐちせんせい」とは、筆者のことである。

## 資料1 「語り部くらぶ」と素材

実施回数	実施年月日	使 用 作 品
1	1995. 9. 29	谷川俊太郎詩「どきん」(自主参加の形で出発)
2	10. 20	『コップこっぷこっぷ』
3	12. 15	『かおかおどんなかお』
4	1996. 1. 24	自己紹介をする(仲間の家定例行事となる)
5	2. 28	谷川俊太郎詩「モグモグ」「たべてのんででるうた」
6	3. 27	『やさいのおなか』
7	4. 24	『ママあててみて』『ももたろう』
8	5. 22	『うらしまたろう』(紙芝居)
9	6. 26	『さるかにがっせん』(紙芝居)
10	7. 24	『ぶんぶくちやがま』(紙芝居)・『こぶたたんぼぼけつととんぼ』
11	8. 28	『ぶたたぬききつねねこ その2』
12	9. 25	『ニャーオン』・『おつきさま』(紙芝居)
13	10. 23	『ババお月さまとって』『このにおいなんのにおい』
14	11. 27	『ぶたたぬききつねねこ』『ありときりぎりす』
15	12. 25	『十二支のはじまり(赤坂三好)』
16	1997. 1. 22	『エンとケラとブン』
17	2. 26	『やさいのおふろ』・『にんじんさんだいこんさんごぼうさん』(紙芝居)
18	3. 26	『みるなのざしき』とんち文字クイズ
19	4. 23	『みんなうんち』
20	5. 22	宮崎県立美術館「ふれあい彫刻展」へ
21	6. 25	『きょうのおべんとうなんだろな』
22	7. 23	『どこでおひるねしようかな』
23	8. 27	『みんなみーつけた』
24	9. 24	『もりのかくれんぼう』
25	10. 29	『どうぶつのこどもたち』『いろいろどうぶつえん』
26	11. 26	『みんなでトイレ』
27	12. 17	『まどから☆おくりもの』
28	1998. 1. 28	『ネコのおりょうり』(紙芝居) 自分の猫えらび命名も
29	2. 25	『ネコのたいそう』(紙芝居)
30	3. 25	『ネコのおてがみ』(紙芝居)
31	4. 22	『みんなきた』
32	5. 27	『ごめんねこねこちゃん』(大型絵話)
33	6. 24	『モモちゃんとかた目のプー』(紙芝居、童話も)
34	7. 22	『おばけのどろんどろんとびかぴかのおばけ』
35	8. 19	ねこのはなし(クイズ)
36	9. 30	『マーくんとおくぷく』
37	10. 27	『マーくんとおくぷく』『かみひこうき』
38	11. 24	『アフリカのぷくぷく』
39	12. 22	『十二支のはじまり(二俣英五郎)』
40	1999. 1. 26	自分のねこえらび・命名
41	2. 23	『つるのねんがじょう』(紙芝居)
42	3. 23	ブルーナのあいうえお㊦行
43	4. 27	ブルーナのあいうえお㊧行
44	5. 25	ブルーナのあいうえお㊨行
45	6. 22	ブルーナのあいうえお㊩行
46	7. 27	ブルーナのあいうえお㊪行
47	8. 24	『うさちゃん』(紙芝居)
48	9. 28	ブルーナのあいうえお㊫行
49	10. 26	ブルーナのあいうえお㊬㊭㊮㊯行

仲間の家あいうえお①

実施回数	実施年月日	使 用 作 品	
50	1999. 11. 16	ブルーナのあいうえお㊦行	仲間の家 あいうえお ①
51	12. 21	『わすれんぼうのサンタさん』・『サンタさんはおおいそがし』（紙芝居）	
52	2000. 1. 25	ブルーナのあいうえお㊦行	
53	2. 29	ブルーナのあいうえお㊦行 自分のねこえらび・命名	
54	3. 28	土田㊦㊩ → ㊦行 1	
55	4. 27	土田㊦㊩㊪ → ㊦行 2	仲間の家 あいうえお ②
56	5. 23	アクセントの違いもフマエ「風」と「風邪」	
57	6. 27	『おいしいものなあに？』（紙芝居）	
58	7. 25	『なにがつれるかな』（紙芝居）	
59	8. 22	土田㊦行	
60	9. 26	濁音ガザダ行をしろ	仲間の家 あいうえお ②
61	10. 27	濁音バ行半濁音パ行をしろ	
62	11. 17	土田㊦行	
63	12. 22	土田㊦行 クリスマスといった何そして色も	
64	2001. 1. 26	自分のねこえらび・命名	
65	2. 23	『クマよ』	写真絵本をとおして ことばをみつる
66	3. 16	『しんすけくん』	
67	4. 27	土田㊦行	
68	5. 25	『そら』	
69	6. 22	『イエペはぼうしがだいすき』	
70	7. 27	『トマトのひみつ』（夏といったら何）	
71	8. 24	土田㊦行	
72	9. 28	土田㊦行	
73	10. 26	『はなびのはなし』土田㊦行	
74	11. 30	『たくあん』土田㊦行	
75	12. 21	『みんなおなじでもみんなちがう』土田㊦行	群をさぐる 五十音から言葉の
76	2002. 1. 25	自分のねこえらび・命名 ㊦行から色のことば	
77	3. 22	㊦行から花のことばを	
78	4. 26	㊩行から食べ物のことばを	
79	5. 24	㊪行から魚のことばを	
80	6. 28	㊫行から姓のことばを	
81	8. 23	㊬行から名のことばを	
82	9. 27	（名をさぐるパート2秋から言葉も）『かみさまからのおくりもの』	
83	10. 25	デザート（つめたいもの・くだもの）㊦～㊬行へ姓名をはめこんでみる	
84	12. 27	『おいしいおと』（自分たちのたべる形に・みそ汁白ごはん以外のおかず）	
85	2003. 1. 23	『みんないるかな』	だ色から言葉をつける
86	2. 23	青・緑・黄・橙・赤色	
87	3. 14	白・黒・桃色	
88	4. 25	紫・茶色	
89	5. 23	肌色	
90	6. 27	七夕短冊 七夕の唄も歌う『たんざくにおねがいをかいて』（紙芝居）	
91	7. 25	夏といったら何色（青・茶・橙・赤・黄・青緑・黄緑を選択）	
92	8. 22	海といったら何色（5種類の青色も活用）『うみとぼく』	
93	9. 26	黒・黄緑・桃・白・青・黄・橙色から言葉を	
94	10. 24	絵本『あたたかいおくりもの』と色	
95	11. 28	『サンタのすず』（紙芝居） クリスマスと言葉そして色	

詩、紙芝居、大型絵話、クイズ、童話のことわり書きのない作品はすべて絵本です。

『ブルーナのあいうえお』昭和50年10月12日講談社発行 ディック・ブルーナ作} を活用して「仲間の家  
『はじめてのあいうえお』1993年4月15日グランドまま社発行 土田義晴・作} あいうえお」をみいだした

## 資料2 猫命名

猫命名 年齢他	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
18						ねこ
21				はあちゃん	こねこ	にゃん
21				みいちゃん	みいちゃん	みゃあ
21			まみ	まり	みー	まり
22		みーな	うさこ	Pちゃん	ぶっさん	しんちゃん
22		ねこ	こねこ	こねこ	どらーねこ	あき
23	みなちゃん	たくびー	2匹の猫 ④ニート&フー太⑤	2匹の猫 トラちゃん&コウ太くん	ドラゴンくん	しゅうくん
24	みみちゃん	たま	ミミーちゃん	ボンタ	(退所)	
24	みーちゃん	つよびー	木村拓哉	ミミちゃん	(退所)	
24 <sup>△</sup>		しゅう	イバイバ	(退所)		
25 <sup>△</sup>			すえひろ	たんぼぼ	宗男	キブソン
26 <sup>△</sup>	すず	ぼんすけ	らん	あめ	りんご	ぐう
27	みーちゃん	ごんた		みいちゃん		
28	みゆ	しろ		ラムちゃん	ホワイト	シロ
28 <sup>△</sup>	ゆきお	(退所)				
29	おうどん	のんた	ミーちゃん	ねこ	ミッキー	おんせん
30	みけ	みいちゃん	フーちゃん	ドラミちゃん	ヒメ	とも
36	たま	くろ	ケコ	げこげこ	ねこ	にゃお
38	きろう	ただ	げんき	チロ	ももちゃん	トム
38	あきなちゃん	あきな	はなこさん	ゆきちゃん	明菜	えみ様
41				わた		
43	たまちゃん	こんちゃん	フウちゃん	しゅうさん	グレイちゃん	シュウ太郎
49 <sup>△</sup>	やまかたや	ころ	のりやす	もげき	リーズ	
50 <sup>△</sup>	ちょうくん	ちろ		ちょん	トラ	チョコ
55 <sup>△</sup>		むさし	ねむ			
55 <sup>△</sup>		ぶーちゃん	チビ	きゅうざえもん	(退所)	
55	みけ	(退所)				
55 <sup>△</sup>		さくら				
65 <sup>△</sup>	しろ					
65 <sup>△</sup>	おふきさん	しゅんじゅん		センチュリー		
65 <sup>△</sup>			トマト	ミーちゃん		クルミ
76	くろ	のりたま	タマ	みい	たま	たま

注① 語り部くらぶ始動の際、声出しに用いる猫は、その年の「Cats Calender」の中から表情のよくわかる写真を選び、仲間・スタッフ・ボランティアが持ちやすいように厚紙をはった形にし、毎年複数準備し、一月の「語り部くらぶ」の折それぞれが気に入った猫を選び、命名をする形をとっている。

注② 数字は年齢○は女性△はスタッフ・ボランティアを表す。

注③ 右のような猫の絵を複数の中から選択し、一年間の声出し相手とする。



## 資料3 ㊦㊧行へ仲間達の姓名をはめこんでみる

(二〇〇二年十月二十五日)

行	あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら
姓	あさだ おがわ いづか	かわの	さかもと	たうら つるさき たなべ ただひら たからべ	なら ながの にしむら ながとも	はらだ ひろすえ ひがしべつぷ	もり まつもと みたに	やまむら やまなか やぐち	
名	いとお えみこ えり あきこ こういち	せいや けいこ こういち	しんや せいや	だいぞう ちほ つと		ひろこ ふみこ ひろやす	まき みか みほこ	ゆうこ やえこ やすてる ようこ	りか りよういち

## 資料4 ことばの群をさぐる

いろ (二〇〇二年一月二十五日) ↓ア行から

あか あお いえろお うぐいす うすみどり えんじ おれんじ おうどいろ

はな (二〇〇二年三月二十二日) ↓カ行から

ガーネット ガーベラ キョウチクトウ キク キンギョソウ  
クロッカス ケイトウ コギク コスモス

たべもの (二〇〇二年四月二十六日) ↓サ行から

さば さしみ さんま さかな さわら さめ さきいか さらだ さとう ささみ さくらんぼ さんしょ しじみ しいらしいたけ しめじ しそ しお しか すし するめ すだこ すいか すめじ せんべい せろり せいろむし せきはん せり (せいたかあわだちそう わかめ) そおざい そうめん そば そらめめ

㊦ 「せいたかあわだちそう」は食べ物ではない、「わかめ」はサ行ではないが、あがつてきた言葉なので記した。

さかな (二〇〇二年五月二十四日) ↓タ行から

たい たち たなご たこ たちうお たら たらこ (たいやき たまご たいこ たもり) ちくわ ちぬ ちようざめ ちりめん じゃこ (ちりばこ ち) つみれ つばがい (つくし つばめ) す つくえ つめ つばめ つづき つき てつぼううお てんどん (てぶくろ てんごく) どじょう とびうお とらふぐとりがい (とまと とんがりこーん とり とりにく)

㊧ 魚介類、加工品までも含めて「さかな」の群れとした。( )は魚以外であるが、語り部くらぶ内であがつてきた言葉である。

㊨ ( ) 内年月日は、語り部くらぶ実施日である。